＜基調講演・生きもの探し講師＞

柳井清治（やないせいじ）

石川県立大学環境科学科地域環境系地域環境情報学分野教授
広島県東広島市出身。
北海道立林業試験場流域保全科長、北海道工業大学都市環境学科教授等を経て、2010年4月から現職。河川生態学、流域保全学を専門にしており、現在は各地の自然再生事業や希少動植物の保全や外来種対策などにも取り組む。
研究テーマは「石川県内における希少淡水魚のその生態解明」「石川県沿岸の森林地帯における陸カニ類を介した森林と海の相互作用の解明」など。
石川県農林水産研究評価委員会委員、石川県景観審議会委員、北海道建設部専門員

＜トークセッション発表者＞

田中住幸（たなかすみゆき）

NPO法人あそべンチャースクール代表
1972年大阪府生まれ。子どものための自然学校「あそべンチャースクール」を主宰し、春・夏・秋・冬、山・川・海、季節、フィールドを問わず、自然の中で子ども達と‘からだいっぱい’あそんでいる。
近年は、「地域の子ども達に地域の自然の中で！」をモットーに、札幌市西区をホームフィールドに、幼稚園や保育園、小学校等での自然体験活動支援にも精力的に取り組んでいる。

齋藤和範（さいとうかずのり）

ざりがに探偵団　主宰
1962年稚内市生まれ。北大大学院農学研究科博士課程後期中退、水産庁・北海道区水産研究所（当時）勤務の後、北大大学院地球環境科学研究科博士課程後期修了。旭川大非常勤講師を経て同大地域研究所特別研究員。道立旭川高等看護学院、道教育大旭川校などで非常勤講師を行うかたわら、フリーランスキュレーターとして道内各地の公民館や博物館などで講座、企画展などを行っている。専門は生物学／生態学（水生昆虫、ざりがに類、カエル類、外来生物、海産生物(特に頭足類)）、博物学（産業遺産／アイヌ(地名・民族)）

綿路昌史（わたじまさし）

NPO法人カラカネイトトンボを守る会～あいあい自然ﾈｯﾄﾜｰｸ～事務局長
北海道札幌旭丘高等学校　教諭
1958年生まれ　北海道虻田郡留寿都村出身、余市育ち
札幌旭丘高校生物部の生徒とともに、石狩川下流域の自然再生に伴うトンボ相の種数、個体数、多様性の変化について調査・研究している。さらに、地元の原風景である篠路福移湿原（石狩湿原の一部）を次世代へ残すため、カラカネイトトンボを守る会として、ナショナルトラスト運動を展開し、それを、もっと多くの人たちに理解していただくための観察会や水辺の自然とふれあえる活動を地元の仲間達と行っている。

鈴木　玲（すずきあきら）

手稲さと川探検隊局長
1964年釧路市生まれ。少年時代は小樽市朝里で山川海で遊びまくる。手稲の人工的な川にもたくさんの生きものがいることに気づき、会社員として植生復元などに携わりながら、2004年に手稲さと川探検隊を始めてしまう。病んだ心を森や川で癒された体験から、地域の子どもやオトナにも自然体験をしてもらいたくて、賛同するスタッフに支えられて月1回程度の活動を行なう。春はカエル卵、野鳥、夏は川遊び、コウモリ、秋は木育、森遊び、冬は雪の中での生きもの探し、メープルシロップづくり等の活動を展開中。現在、福祉系の仲間と活動ファームづくりを模索中

＜コメンテーター＞

椎野亜紀夫（しいのあきお）

北海道工業大学 空間創造学部 都市環境学科准教授
1972年生まれ、神奈川県出身。
2001年千葉大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了、博士（工学）。
札幌市手稲区において、小学生児童を対象とした自然観察活動に世話役として参加。
こどもの視点に立った都市・地域づくりをテーマに調査・研究活動を行っている。
モットーは「現場主義」。

＜司会・ファシリテーター＞

太田　稔（おおたみのる）

環境共育事務所うてきあに代表　NPO法人共育フォーラム代表理事
1973年網走市生まれ。1994年ニセコのプチホテルに就職しアウトドア事業部部長就任。自然体験プログラムコーディネート、ネイチャーガイド活動を開始。1996年より環境教育フリーランスとして活動開始。キロロリゾートネイチャープログラムディレクター。2000年に、環境共育事務所うてきあに設立。プリンスホテル、道立公園噴火湾パノラマパーク・オートリゾート八雲キャンプ場コーディネーター、日高ケンタッキーファームなどで自然体験プログラムのコーディネートを歴任。2012年4月NPO法人共育フォーラム代表理事就任。